

課題名：脾液漏出抑制能力を有する自己集合性ペプチドゲル脾液瘻予防材の開発

代表機関／代表者：大阪大学/江口 英利

分担機関：株式会社メニコン

研究期間：令和6年4月～令和7年3月

クラス分類：IV

研究開発目的

脾切除手術後の患者負担、医療従事者負担を大幅に軽減することができる脾液瘻予防材の開発

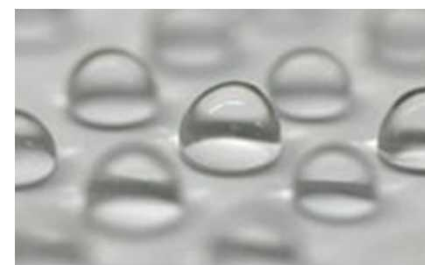
- 現在、脾切除手術では、脾液が漏れる術後合併症である脾液瘻の発生抑制を目的にフィブリン糊やポリグリコール酸メッシュが脾切除部位に塗布・貼付されている。
- フィブリン糊は脾液により非常に短期間で分解され、ポリグリコール酸メッシュは不織布構造であるためにシーリング性が弱く、脾液漏出を十分に抑えることができない問題がある。
- 分解が遅く、シーリング性が強い材料で、患者及び医療従事者の負担の少ない革新的な医療機器（脾液瘻予防材）の開発が求められている。

取り組み・成果

- 自己集合性ペプチド脾液瘻予防材の探索的医師主導治験の実施
- 自己集合性ペプチド脾液瘻予防材の検証的医師主導治験プロトコルの確定

今後の展開

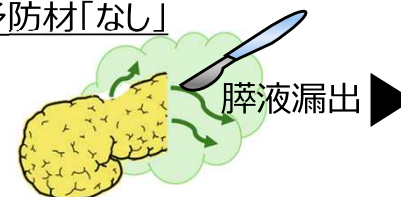
- 探索的治験を完了させて、検証的治験を経て、薬事承認、保険償還、上市を目指す

自己集合性ペプチドゲル

- ・中性で透明なゲル
- ・酵素による分解を受けにくい
- ・薄く塗り広げることが可能
- ・細胞の足場となる

脾液瘻予防材

予防材「なし」



予防材「あり」



負担少なく退院